

地域資源デジタルアーカイブにおける地域資料の保管

久世 均 (岐阜女子大学)

知識循環型社会においてデジタルアーカイブを有効的に活用し、新たな知を創造するという「知的創造サイクル」の手法により、地域課題に実践的な解決方法を確立するために、地域に開かれた地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための基盤整備をしている。

このことにより、地域課題に主体的に取り組む人材を養成する大学として、地方創成イノベーションの実現と伝統文化産業の振興並びに新たな観光資源の発掘を行うことができる。

ここでは、地域資源に関する総合的な地域文化の創造を進める地域資源デジタルアーカイブの保管方法について紹介する。

(1) 地域資源デジタルアーカイブ

地域資源デジタルアーカイブをデータベース化する際に、「知的創造サイクル」に適應するために Web 公開型と非公開長期保存型の2つの種類のデータベースを作成した。これらのデータベースは、図1のような関係となる。

地域資源デジタルアーカイブを構築するにあたって、地域資源デジタルアーカイブで共通したメタデータの項目が重要となる。

メタデータとは、コンテンツ自身のことを説明するためのデータのことで、本について言えば本の「タイトル」「著者」「出版社」「発行日」「値段」などが該当する。検索用のキーワードをメタデータとしてあらかじめ付与しておくことで、対象となる情報資源を効率的に検索したり、あるいはコンテンツがデジタルデータの場合は、どのようなフォーマットで保存されているのかをメタデータとして記録しておくことで、再生するための方法を識別したりすることができる。

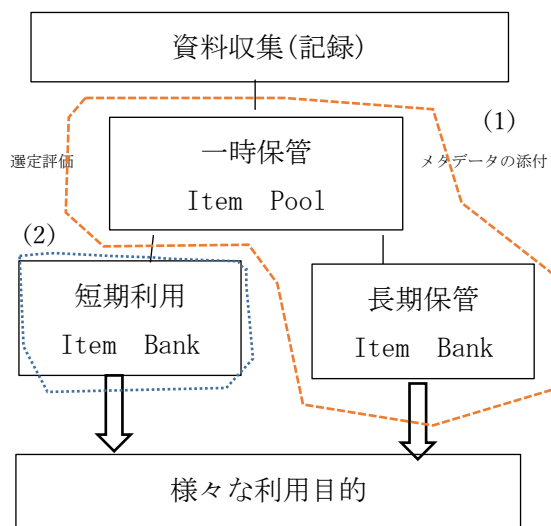


図1 Web公開型と非公開型DBの関係性

どのようなフォーマットで保存されているのかをメタデータとして記録しておくことで、再生するための方法を識別したりすることができる。

(2) Web 公開型データベース

Web 公開型データベースは、デジタルアーカイブしたものを、図2のように①名称②アイキャッチ画像③説明④関係資料⑤地図情報で構成されている。図1の短期利用 (Item Bank) に相当する。



(1)

図2 Web 公開型データベース

(3) 非公開型データベース

非公開型データベースは、長期保存・管理を目的とするデータベースで、映像は高品位な映像をそのまま保存し、紙メディアについては、できるだけ高品位にスキャンして保存している。このデータベースには、OCR 機能があるため、データを文字で検索でき、メタデータをジャケット単位に付記することが可能になっている。非公開型となっているため、新しい知を創造するために必要と思われる情報をここに保管する。図1では、一時保管の「Item Pool」と長期保管の「Item Bank」の機能を有するデータベースとなる。

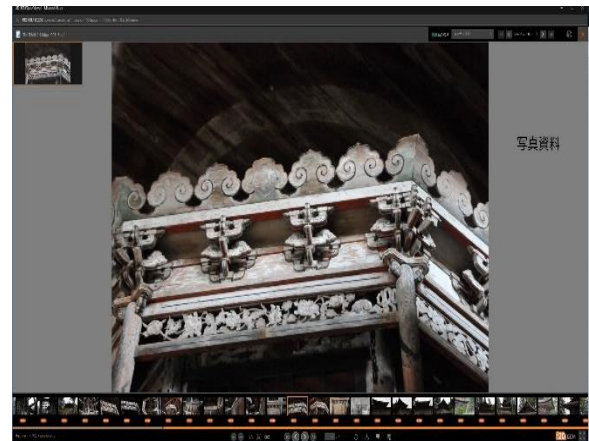


図3 非公開長期保存型データベース

(3) 地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための基盤整備

知識循環型社会においてはデジタルアーカイブを有効的に活用し、新たな知を創造するという「知的創造サイクル」の手法により、地域課題に実践的な解決方法を確認するために、地域に開かれた地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための基盤整備が必要となる。

ここでは、知の増殖型サイクルを支えるメタデータと Web 公開を目的としたデータベースと長期保管を目的としたデータベースについて報告した。